

長崎県幼児教育センターだより

No. 6



2024. 8. 28



～学ぶ保育士等応援事業の活用、ありがとうございます！～

今年はこれまで以上に暑さがこたえる夏となりました。野菜が熱中症になったり、自然の動物が暑さで命を落したりと、夏に関する異様なニュースも耳にしました。各園でも外遊びや水遊びの際には、細心の注意を払いこれまで以上に気を遣われたことと思います。秋の涼しい風、爽やかな空気が待ち遠しいですね。

さて、今年度から始まりました「学ぶ保育士等応援事業」を活用された園から、「園内研修 DVD の内容がとてもよいですね。」というお声をいただきました。当センター長と3名の幼児教育アドバイザーが、2020年度文部科学省委託研究において作成されたDVDの動画を全て確認し、その中から厳選した動画を見て県で編集しました。まだ貸出枚数に余裕がありますので、これから学ぶ保育士等応援事業の要件となる園内研修に取り組まれる園におかれましては、ぜひ、ご活用いただきたいと思います。

～ 座学に！実技に！ありがとうございました！～

8月23日（金）に長崎県立総合体育館において「幼児期の教育・保育力向上研修会」を開催いたしました。

午前は、長崎大学大学院教授の峰松和夫先生により「骨と眼から見る幼児期の運動の大切さ」について、県幼児教育センター長の室野により「幼児期の運動遊び」についての講義、午後は運動遊びの実技研修と、頭も体もフル回転での研修となりました。

<参加者の感想より>

子どもたちと過ごす中で骨と眼という視点で考えることはほとんどなかったのだが、眼から情報を得る、骨の成長と運動能力に関係性があることを考えると、何よりも大切な視点だと感じた。また、基本的な動きに注目することで、生活の中で様々な動きを取り入れていると感じた。子どもの変化に気づき、動きを考えながら取り入れて行きたいと思った。

遊びを通して体の使い方を意識することができた。こうしても面白いよねとチームの先生と話す事もあり、遊びを発展させる楽しさを身を持って感じた。



～読書の秋に向けて～

今年度も、文部科学省から「子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体（個人）に対する文部科学大臣表彰の推薦」依頼がまいりました。

現在、各市町の教育委員会、幼児教育・保育施設担当課、県保育協会、私立幼稚園・認定こども園連合会へ推薦を依頼する文書を送付しております。

ぜひ、自分たちの園（所）の読書の取組を推薦してほしいという場合には、各市町の担当課や関係団体へお知らせください。

..... 📖 📖 📖

以前もこのセンターだよりでお知らせしておりましたが、様々な工夫ある読書の取組を行っている園の実践を広く、皆さまへお伝えしたく、今後、電話での聞き取りや施設見学等でお声をおかけすることがあるかもしれません。その際は、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

（文責：石田 久美子）

子ども同士のトラブル

トラブルはできるだけない方がいいのでしょうか。いいえ、トラブルは育ちに必要な経験です。

遊びの中で、時には思いどおりにいかなかったり、悔しい思いをしたりするなど、葛藤やつまずき等も体験し、それらを乗り越えて達成感や満足感を味わっていくことが重要です。そして、そのような体験も通して、忍耐力、自己制御、自尊心といった社会情動的スキルやいわゆる非認知能力を育てていくのです。

トラブルが起きないように、すべて回避したり、保育者が早めに介入して平穏無事に済ませたりすることが、必ずしも子どものためになるというわけではありません。トラブルが起きたときこそ育ちのチャンスです。ケガにつながらない場合は、まず、見守りましょう。自分の思いを存分にぶつけ合わせて、それぞれがどんな思いをもち、何を主張しているのかを読み取ります。自分たち、または、周りの子どもの関わりで解決できるならそれに越したことはありません。解決できたことをほめてあげたいですね。自分たちで解決できそうにない場合は、保育者が「どうしたの？」と介入します。それぞれの思いを聞く場面で、子どもは「相手にも思いがあること」に気付くことができます。解決策もできるだけ子どもが考えるように導きます。「折り合いをつける」って生きていくうえで大事な力ですね。

その日に心の折り合いがつかないこともあります。そんな場合は無理矢理仲直りをさせる必要はありません。子どもなりに自分の中で時間をかけて葛藤することもあるでしょう。次の日に、折り紙を差し出して「先生、ごめんねってどう書くの？」と言ってきた子どもがいました。家に帰ってから、自分が悪かったなと思ったのでしょうね。

「けんかしても大丈夫。ちゃんと仲直りできる。」という体験が、やがて小学校、中学校へと進んで、一人でトラブルに立ち向かうときの支えになってくれればと思います。

（センター長 室野）

